

令和6年の大阪市北区の火災状況

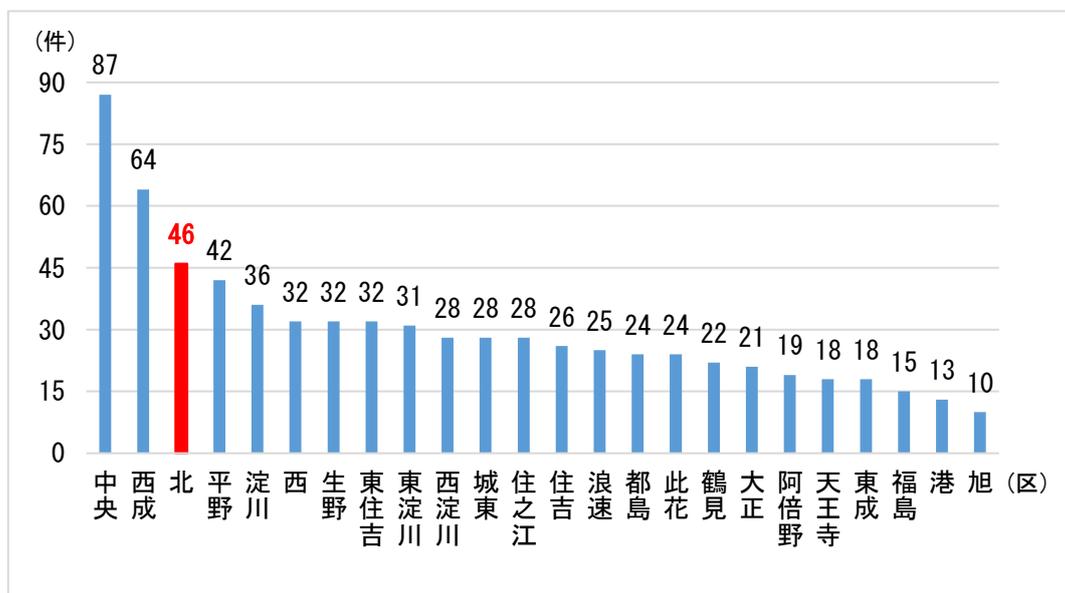
大阪市北消防署

令和7年5月作成

1 大阪市の火災件数

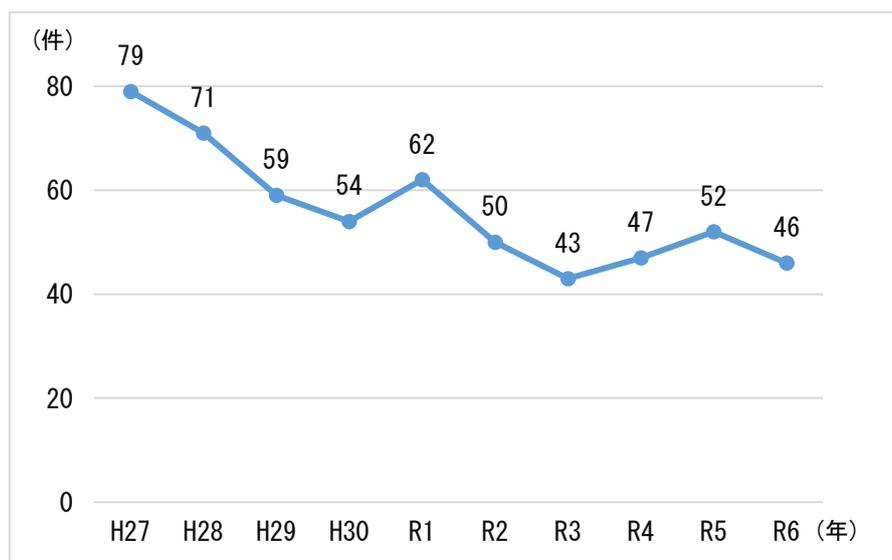
昨年1年間で大阪市内では721件の火災が発生しました。

行政区ごとの火災件数を見ると、北区は46件の火災が発生し、中央区、西成区に続いて3番目に多い件数になりました。



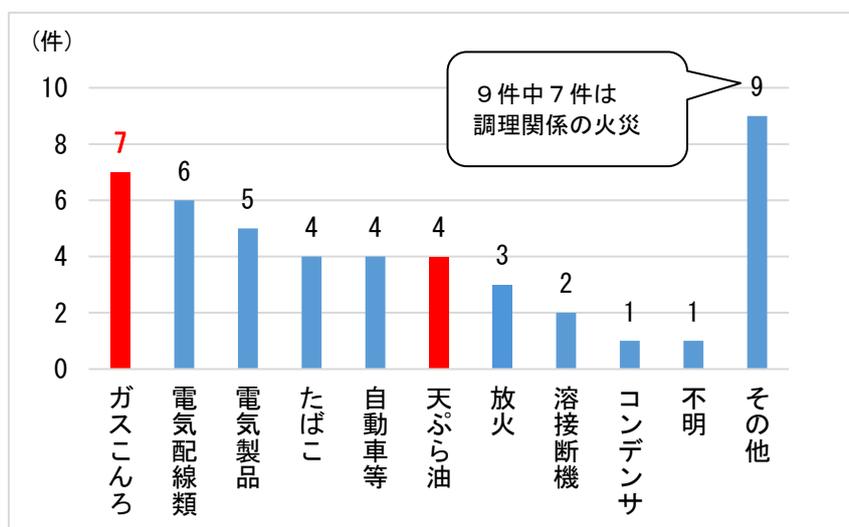
2 北区の火災件数の推移

北区の火災件数は過去10年間で減少傾向にあり、10年前の平成27年と比較すると33件(約42%)減少しました。



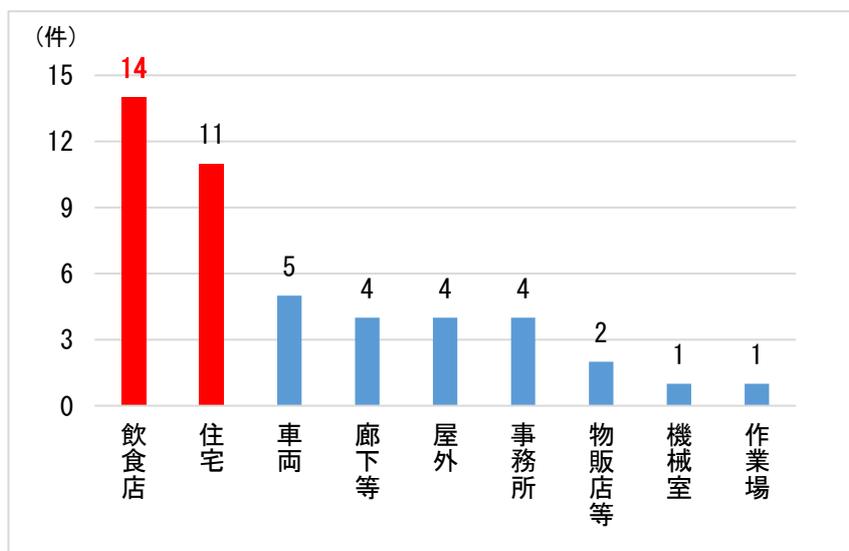
3 出火原因別の火災件数

北区で発生した46件の火災を出火原因別に見てみると、「ガスこんろ」が7件と最も多い結果となりました。「その他」の9件の火災の中にも「七輪」や「炭火」、「ガストーチバーナー」等、調理に関係する原因が7件含まれており、「天ぷら油」の4件と合わせると、調理に関係する火災が全体の4割近くに当たる18件発生したことになります。



4 出火場所別の火災件数

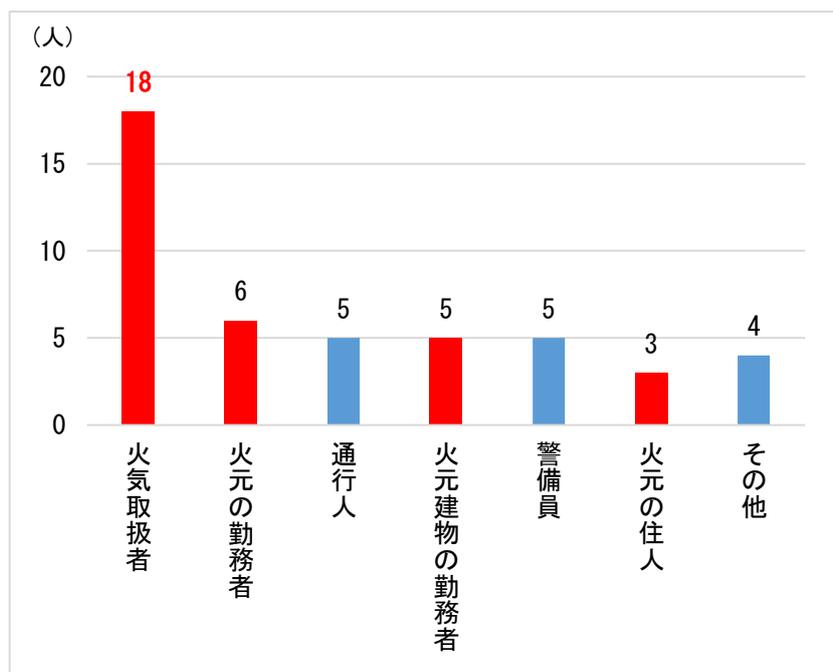
北区で発生した火災を出火場所別に見てみると、飲食店からの出火が14件（全体の30%）と最も多く、続いて住宅からの出火が11件（全体の24%）となり、飲食店と住宅の2つで全体の5割以上を占めました。



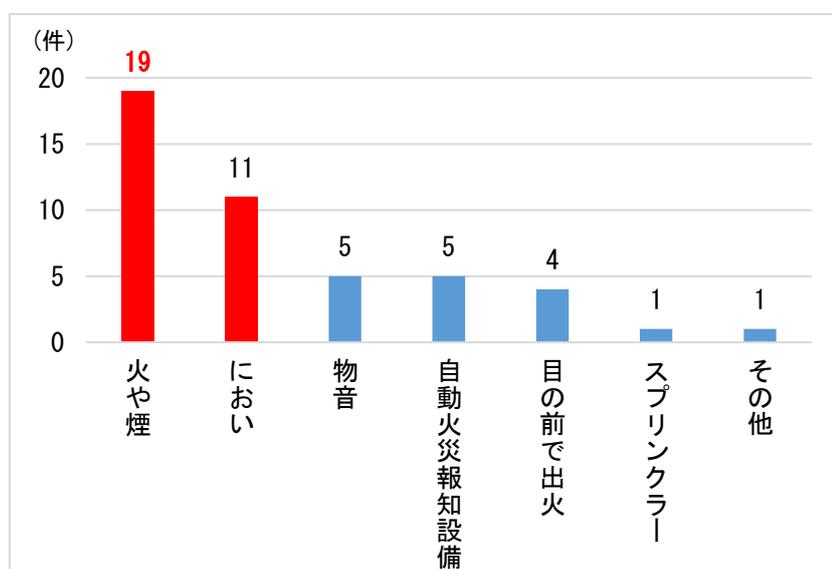
5 発見の状況

火災を発見した人の内訳を見ると、**出火原因となった火気を取り扱っていた人（火気取扱者）が18人と最も多く全体の4割近く**を占めました。

火気取扱者以外にも火元の勤務者や住人、火災が発生した建物（火元建物）の勤務者といった**火元に関係する人が火災を発見することが多く、これらを合わせると32人で全体の7割近く**を占めました。

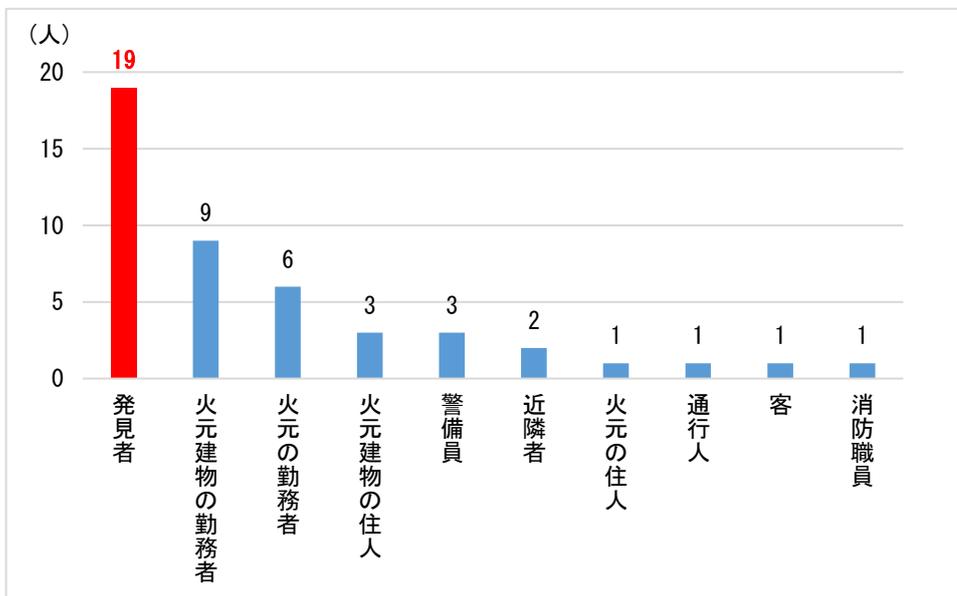


また、発見した動機を見てみると、「**火や煙**」によって発見に至った件数が最も多く19件、続いて「**におい**」が11件でした。

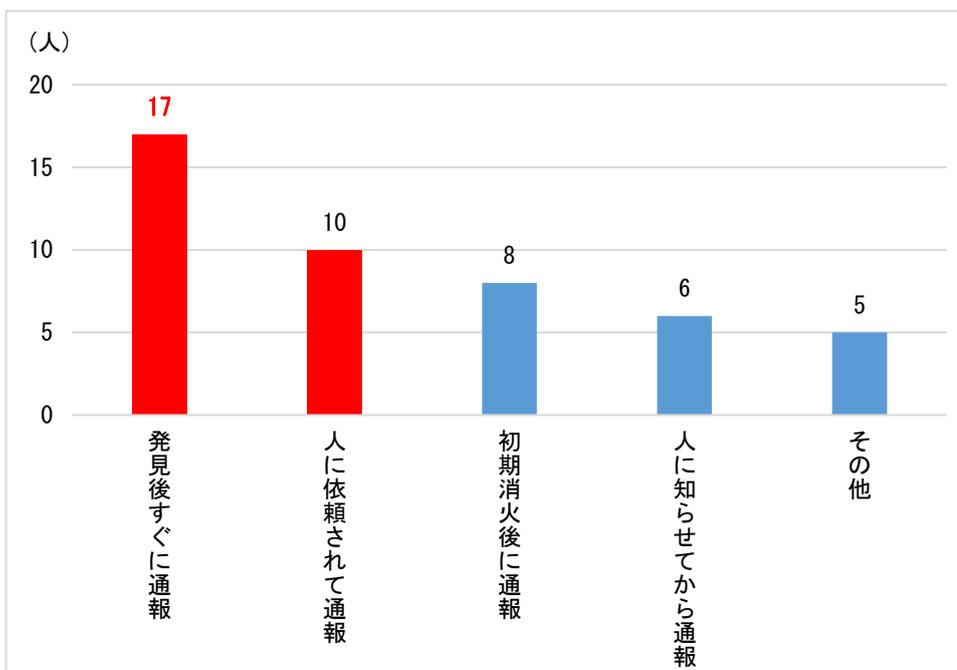


6 通報の状況

通報した人の内訳をしてみると、**火災を発見した人による通報が19件で最も多く全体の4割**を占めました。

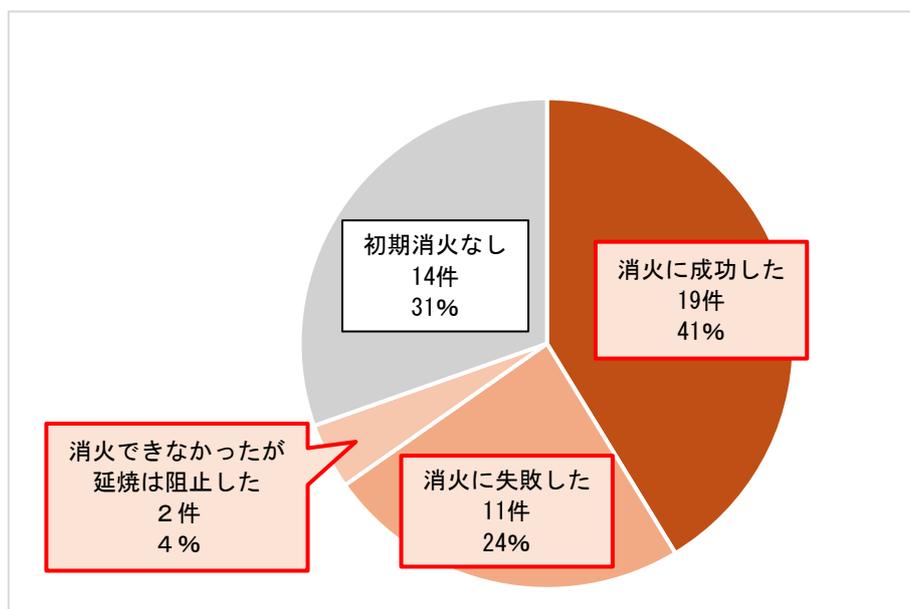


また、通報時の状況を見てみると、**発見後にすぐに通報した人が最も多く17人、続いて人に依頼されて通報した人が10人**でした。

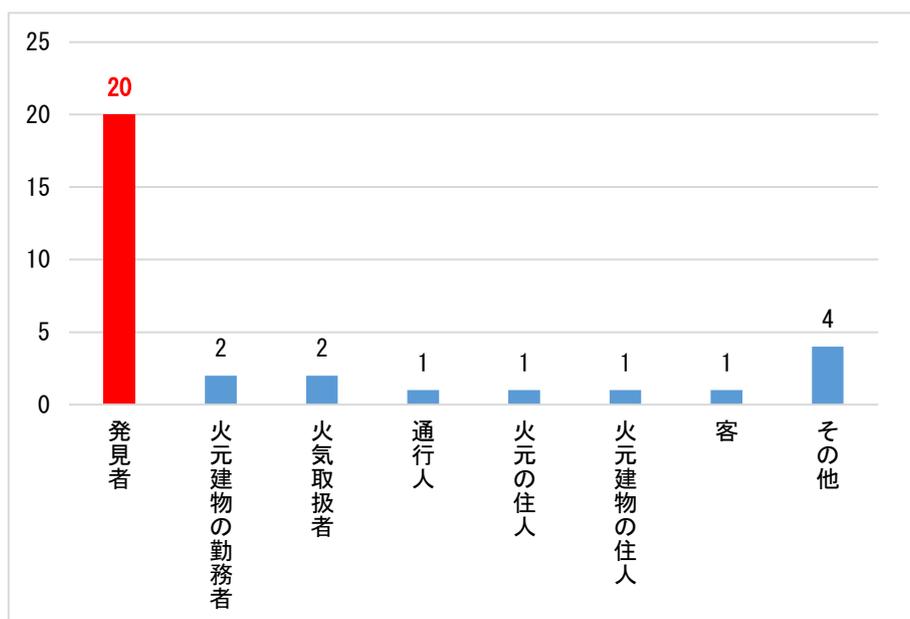


7 初期消火の状況

北区で発生した火災のうち **32 件（全体の 69%）** の火災で初期消火が行われ、**消火に成功したのは 19 件（全体の 41%）** でした。これは**初期消火をした 6 割近く**の人が消火に成功していることになります。



初期消火をした人の内訳を見ると、**火災を発見した人による消火が 20 件で全体の 6 割以上**を占めました。



8 まとめ

令和6年の大阪市北区の火災の状況を見てみると、10年前と比較すると減少傾向にはあるものの、大阪市全体で見ると3番目に火災が多い行政区となっており、今後も継続した火災予防、防火対策が必要不可欠であることが明らかになりました。

出火場所や出火原因を見てみると、飲食店や住宅においてガスコンロや天ぷら油等の調理に係る火災が多く発生していることが分かりました。

調理中はその場から離れない、調理機器の周辺に燃えやすいものを置かないといった心がけが大切です。

火災を発見した動機は「火や煙」、「におい」が多く見られました。

もし出火場所の近くに人がいなかった場合には火や煙、においに気づかずに発見が遅れていた可能性も高く、自動火災報知設備や住宅用火災警報器による早期発見が特に重要であると考えられます。

住宅用火災警報器は平成22年4月1日からすべての住宅での設置が義務化されましたが、すでに15年が経過しています。当初に設置された警報器は老朽化や電池切れにより正常に作動しない可能性が考えられますので、点検や必要に応じて本体、電池を交換する等の維持管理をお願いいたします。

通報の状況では火災の発見者が通報することが多く、ほとんどが発見後すぐに通報していることから、消防隊の早期到着に大きな効果があったと考えられます。

より良い通報を行うためには、普段から自宅や職場の住所を再確認したり、屋外の電柱や建物の住居表示を意識することが大切です。

初期消火の状況を見てみると、全体の7割近くの火災で初期消火が行われており、そのうち6割近くは消火に成功していました。

初期消火は普段の火災時はもちろん、震災等の大災害が発生した際の自助・共助において大きな役割を果たします。消火器だけでなく屋内消火栓や可搬式ポンプでの消火訓練を実施し、様々な方法で初期消火を行うことができるようになることが重要ではないでしょうか。

火災が発生しない安全な北区を実現するためにも、昨年発生した火災のひとつひとつを分析し今後の火災予防、防火対策に活かしていかなければなりません。

今回の火災状況の分析がみなさまの防火意識向上の一助になれば幸いです。

令和7年5月
大阪市北消防署